

議 事 録

会議名	令和5年度第3回寒川町総合計画審議会		
開催日時	令和6年2月1日（木） 14時00分から16時15分		
開催場所	寒川町役場 別館3階 議会第1・2会議室		
出席者名、 欠席者名及 び傍聴者数	<p>< 委員 > 篠田寛、森井順子、及川和彦、高橋伸隆、内野晴雄、天利幸一、 山本哲、菊地端夫、釦持麻衣、小林誠 （欠席者） 小川雅子、相田孝、齋藤正信、橋口翔、野田春希、落合裕子</p> <p>< 事務局 > （企画政策課） 関根課長、奥谷副主幹、山下主査、酒井主任主事、佐藤主事補 （人事課） 青木課長、三澤副主幹 傍聴者3名</p>		
議 題	(1) 寒川町総合計画審議会から寒川町への提案について (2) 寒川町総合計画 2040 第1次実施計画の修正について (3) 「寒川町総合計画 2040」第1次実施計画の振りかえり及び第2次実施計画 策定の基本的な考え方（案）について		
決定事項			
公開又は 非公開の 別	公開	非公開の場合その 理由（一部非公開 の場合を含む）	
議事の経過	<p>○ 開会</p> <p>1 議 題</p> <p>(1) 寒川町総合計画審議会から寒川町への提案について < 事務局から資料1に基づき説明 ></p> <p>【会長】御報告ありがとうございました。今、課長から御説明いただきました資料 1の検討状況につきまして、改めて確認あるいは御意見はいかがでしょうか。ど んな内容でも結構です。</p> <p>【及川委員】いろいろ検討いただいて、どうもありがとうございます。内容として は、私どもからのお願いしたいことを大分取り入れていただいたような検討結果 という事じゃないかなと聞かせていただきました。</p> <p>1点だけお願いといいますか確認なのですが、2つ目と3つ目の今後反映予定 と今後検討予定という項目について、進捗状況を具体的にこの審議会の中で、例</p>		

えば、年単位で検討されるということや、次にこういう形で進捗していますとか、あるいは、こういうことを新たに盛り込みましたというのを、最終的に町のほうとしてここまでやったからもういいでしょうということまでは、ぜひタイミングを見て継続してお話しいただければなというふうに思いますので、その辺ぜひ御検討いただければ。

【事務局】ありがとうございます。その辺りにつきましては、議事の運営もあるでしょうから企画政策課と調整しながら、できる限り御報告ができるような形で、我々としても、それがあってのしっかり進めなければいけないというような、ある意味ハードルが上がりますが、そういった面もありますので、そう受け止めながら前向きに考えたいと思います。よろしくお祈いします。

【小林委員】今年度からなので、昨年これには入ってないのですが質問で、自分も会社員で、自分のことのように今聞いていたのですが。

1つ目に、まず評価ということと言うと、現状どのような評価ツールがあって、今度どういうふうに変えるみたいなのがありますか。僕の会社だと、3つぐらいエクセルがあって、コミット・アンド・ターゲットシート、キャリア開発シート、コンピテンシーシートとその3つで推しはかっているのですが、今そういうものが町にあるのかと、今回のこの検討で何か改善するみたいなのがありますかという質問です。

【事務局】今、寒川町では、能力評価をしまして、能力評価、実績評価、あとは重点目標というシートを作って評価をしております。まず目標を立てて、それで実績がどうだったか、その中で発揮された能力はどうだったかというところで評価しております。

今後の改善ですが、基本的にはそのベースで、まず、目指すべきもの、人材育成基本方針というのを掲げまして、その中で整理したものを評価に落とし込んでいくというところで今後検討していこうと考えております。

【小林委員】ありがとうございます。うちも、すごく難しいですが、大きなものから自分事にしていくとするので、大きい会社とか町とかがあって、部、グループ、個人みたいになっているといいと思いますので、取り組んでください。

あと、評価のところ町民のというのがあったのですが、なかなかこれは難しいなともお聞きして思っていたので、現状でもいいのですが、寒川町でいろいろな部署があってMVPみたいな制度とかがあるのですか。うちの会社でも、5,000円もらって、その時いい仕事をしたと言ってそれがうれしかったりするのですが、今、そんな風土みたいなのはありますかという質問です。

【事務局】そういった意味では、職員表彰制度というものがございます。今年度も、大体年度末にやっているのですが、今、内申を募集しています。業務の効率化を図られたとか、業務に有効な資格取得を自己研さんで取ったというようなもの、内規で基準があるのですが、それに基づいて所属長に内申をしてもらって、審査の評価委員会の中で表彰という形で、記念品も本当に、町の商品券なのですが、そういったもので意識高揚を図るというような制度はございます。

【小林委員】分かりました。どうもありがとうございます。

【会長】ほかにいかがでしょうか。

【高橋委員】ありがとうございました。非常にきめ細かく御説明いただき、また、各目標をしっかりとつけられているなどというのも分かりますけれども、今後とも、この目標設定につきましては、さらに研さんしてやっていただきたいなと思います。

それから、評価するというのは、これもおっしゃるように非常に難しい。我々も民間で評価制度をやると、やはり上司が自分の評価をよくするために部下の評価をよくしてしまい、どうしても甘くなるのですね。それをなくすために、フラットにして全体の評価をしようということです。そういう意味では、例えば、こちらの場合ですと部長会議でお互いに評価し合うというようにするのですか。

【事務局】ありがとうございます。おっしゃるとおり、現状で言いますと、管理職の人事評価の結果については、ボーナスのときの勤勉手当の成績率に反映しているという状況でございます。そこについては、各部長が我々管理職の分を評価して、その評価を持ち寄って、自分たちの評価が本当に高過ぎないのか低過ぎないのかというような目合わせは、評価委員会というものが部長級で設けられておりますので、そこで目合わせをしている状況になります。

管理職以外の職員については、そういった成績率の反映がありませんので、現状では横とのすり合わせというものはありません。

【高橋委員】なるほど。係長以下、主事以下、そういうときには部長が課長との連携を取るとかすればよろしいと思います。

それから、もう一つ非常に重要だなと思ったのは、上司と部下とのコミュニケーションというのを、今まで以上に充実させていく、何よりもこれが一番大切かなと思います。評価されて、悪い評価を受けた人は、自分は常にプラスだと思っていますから不満になるのですよね。だから、そのときこそ、あなたはこういったことが劣っていたよと話す。部下からもそうではないのですとの意見も聞くとか、要するに、そのコミュニケーションが大事。

往々にして、上からのトップダウンで決めていってしまうとやはり不満が出てきますので、これは最終的にはモチベーションを下げることになってしまいます。ぜひそれをお願いしたいと思います。

それから、今後の目標として、奈良の生駒市のお話を聞かせていただきましたけれども、非常にすばらしいなと思いますし、ぜひ寒川でもこういうことを積極的にやっていただきたいなと思います。

そのときに、これは個人もありますし、それから部の単位もあるだろうと思います。行政の場合にはある意味ではサービス業ですから、一番のクライアントである町民、住民の方々がいかに気持ちよくサービスを受けられたかという評価だと思うのです。そういう意味では、中にはクレーマーの方もいるでしょうし、いろいろな方がいますけれども、そういう中でうまくこの部は頑張っただけで対応しているなどというのを評価するというのは、いろいろな評価の仕方があると思うのです。

例えば、ミシュランの評価の仕方みたいに、調査員が何の気なしに来て全体の評価をしていくようなとか、Aさん、Bさん、この人が評価員ですよというふうになってしまうと、これまたちょっと不公平になりますので、ミシュラン方式も

あるかなと思います。この辺はぜひ研究して、いろいろやってみるとか、いろいろ御検討されている中で、生駒市も参考にしながら決めていただけたらいいかなと思います。

これからは、私どもの仕事もそうですけれども、今までの社会福祉協議会は、全国にあって共通に、それこそ金太郎飴のようにどこを切っても同じというようなことではなくなって、お互いに競争し、個性を出していかなければいけない時代になっています。行政のほうも寒川町の色を出してやっていただけたら活気が出てくるかなと思います。

住民の活気を出すには、やはりまず、活気ある職員の方が多いというふうに評価されるのが一番早いかなと思いますので、ぜひ御検討をお願いします。

【会長】ありがとうございます。

私からも一委員としての感想、コメントになりますが、今のお話で言ったら、今年度のモチベーションアンケートからは、町民からの評価についてよりも職員間コミュニケーション機会の内的な承認機会ということが重要と職員自身は認識をされている。自治体の人事評価というのはしばしば、評判で決まるというような言い方をしています。そういったことがこの結果に表れているのかなというのがちょっと思った次第です。

一方で、今、高橋委員がおっしゃったとおり、生駒市のようなやり方を実際に実施していくと、いろいろな困難があるだろうということも認識をしております。先ほど及川委員から今後のフォローアップというお話もありました。これを進めていくときに、このお話を総合計画審議会で議論した理由というのは、総合計画を推進していくに当たって、町の職員というのが最も重要な資源であろうということになり、そういった人たちからモチベーションを上げていくことが総合計画を推進していくためには極めて重要であろうということで、このテーマを設定しました。

ですので、場合によっては、町民からの評価のようなものの制度をつくったときに、例えば、町民から上がってきた評価、表彰提案を町が選ぶということになると問題になるということであれば、ここで議論をする。ここで選んで、この方だったらいいのではないかとする。評価をする評価の基準も当然必要になってくるわけです。そういったことを我々に投げ返していただいてもいいのかなと思っております。

そういう意味で、相互のフォローアップではないですけれども、この総合計画審議会、総合計画が抱える、ともに新化するということを、この審議会自体がある意味実現をする必要があるのではないかとということを常々申し上げております。町の表彰制度ですけれども、これの制度設計をするときに、我々の審議会と一緒にやっていくというようなやり方もあるのかなということで、申し上げておきます。

ほかにいかがでしょうか。

【篠田委員】生駒市のものは投票を行うと書いてあるのですが、市がこういう人ですよというのを広報を出しておいて、そこに投票してもらおうという、そういうやり方という理解でいいですか。一人一人を普通の人が挙げるというのはなかなか

考えづらいので、投票を行うということは、そういうことでよろしいのですよね。

候補者がこういう人だということを、例えば10人ぐらいあって、そこから10人、この人でこういう功績があったということに対して投票していただくという、そういう仕組みになっているという理解でいいでしょうか。

【事務局】確かなことは言えませんが、そういうふうには資料の中からは読み取れませんので、ちょっと今後研究していきたいなと思っております。

【篠田委員】なかなか一市民の方がこの人というのとも言えないし。逆に、行政は全てこうやっていくのではなくて、例えば、税とかの規制当局もあるので、なかなか、そういう人には絶対いい評価なんてほぼないと思ったりするので。

【事務局】ありがとうございます。今、最後にコメントいただいた件については、私も非常に課題だなと思っていて、先ほど表彰制度があるよということでお話しさせていただきましたが、表彰の基準が華やかなのです。華やかな成果を出さないと表彰がもらえない形になっているので、これまで過去の受賞者というところも併せて出しながら内申をもらっていますけれども、やはり皆さん華やかなのです。

おっしゃったとおり、本当に当たり前のことを着実に正確にやっている、何年もやっている職員もたくさんいますので、やはりそういった職員もしっかりと表彰というか認められるような、そういった表彰制度設計も我々はしていきたいと、来年度以降も考えていきたいと思っています。

様々な御意見をいただきまして、本当にありがとうございます。大変力強い後押しもございましたので、いただいた御意見を踏まえまして、また今後検討を色々進めていきたいと思っております。ありがとうございます。

【会長】ありがとうございました。

1点だけ追記といたしますが、外部からの評価ということについて今議論があって、まさに町民から直接評価をするということ以外に、評価をされたということ自体が外部に伝わるということが大事なのかなという意味合いでも少し議論になりました。

職員表彰の対象となった人は、それを支える家族だったり、表彰されるだけの活躍をするのに足る個人の能力、資質、活動だけではなくて、それを支える人たちが当然いたわけなので、個人を支える人たちと分かち合う機会みたいなものが、そういう意味での外部の承認というものが必要なのではないかとということも少し議論になりました。念のために申しておきます。

【事務局】ありがとうございます。確かに、内部で表彰はしたものの、表彰受賞者を例えば広報紙で紹介するとかホームページで紹介するとかということはやっていない状況ですので、本当に会長がおっしゃるとおり、それを支える家族だったり、そうでない町民の方もこんなにすごいことをやっているのだと思ってしまうことは町にとってプラスだと思いますので、その辺りも含めて今後検討していきたいと思っております。ありがとうございます。

【会長】それでは、皆さん、よろしいでしょうか。これは昨年度の議案に対する町側の検討の状況の報告ということでした。

それでは、今、人事課長から御説明いただきました昨年度の提案に関する検討

については、ここまでといたします。御説明どうもありがとうございました。

<人事課職員退席>

【会長】 続きまして、議題の(1)の後半が資料2になりまして、こちらが今年度、前回総合計画審議会の我々で議論した内容を昨年度と同様に町側に提案をするというものです。11月に「地域で子育てするコミュニティの活性化」をテーマに委員同士で議論いたしました。その内容について、こういった形で3本柱のような内容かなということと、もう少し意見をまとめると角が取れてしまうので、個別の御意見も委員意見の記録として後ろに残すものをまとめさせていただきました。

こういった形式、まとめ方でよろしいか、あるいは、当時議論した内容が盛り込まれているところに漏れがないか、あるいは、これは外したほうがいいのかということも含めて内容の御確認をいただいて、御提案いただければと思います。

今、昨年度に対する検討状況がございましたけれども、今のお話を聞くと、どういう投げかけ方をすればキャッチボールとして戻ってくるのかということとは、何となく昨年度から参加されている方はイメージがつくかと思いますので、この前段の議論を踏まえた上で、もう少し絞ったほうがいいのかといったことも含めて、資料2に関して御自由に御意見いただければと思います。

どちらかという、我々の中でまとめるというところがありますので。どの点からも結構です。11月ですので、議論の内容を思い出していただきながらということになるかと思いますが。いかがでしょうか。

例えば、①については、最後、部長や関係課長からの我々の議論を聞いていただいた感想をちょっと述べていただきましたが、そのときには、我々が考えているような内容というのが、町が考えている内容と方向性としては合っているということで、そういう意味では町が考えている方向性と我々が必要だと思っている方向性に変わりがないことで安心をしたというような感想があったかと思います。そうしますと、意を強くして今後進めていくというような対応策が恐らく返ってくるのではないかとということが予想されるわけですが。

いかがでしょうか。加えて、先ほど私が申し上げたように、この審議会として何か、あるいは委員として何かできるようなことをここにに入れてもいいのかなとは思っています。どなたでも結構ですが、口火を切っていただければと思うのですが。

【高橋委員】 コミュニティの評価といいますか、活性化というようなことでいろいろ議論したのですが、今、会長からもお話がありましたように、11月だったものですから、一般的などという話だったのですが、御承知のように、1月1日の大震災で、コミュニティの重要性というのが毎日のようにテレビで見るわけです。能登と我々寒川は地形的にも全然違うだろうということですが、やはり災害は同じような考えをしていかないといけないだろうということになると、議論しました①から③までの重要性というのをさらに強調していくと言ったらおかしいの

ですが、住民の方一人一人が考えていかないといけない問題であるかなと思いますので、そういう意味では、この議論というのは本当に大切だったなという気がしますし、さらに強調していかないといけないのかなと思います。

【会長】ありがとうございます。②のあたりの必要性の背景みたいなことで少し入れるというのもありかと思います。ただ、前回議論したのは、地域で子育てをするコミュニティというところに焦点を絞っていたところがありますので、その辺りの議論の絞り方のポイントも含めて思い出しながら、感想でもいいですし、このままでもいいという御意見でもいいのですが、いかがでしょう。

コミュニティの必要性というのが特に災害時というのは非常に重視されるのだというのはおっしゃるとおりです。

【篠田委員】町の受け止めとして、これを受けて多少見直しているよという話があるというときに、こういう大きな地震があったときに、話していたのはこの内容なので、これでいいのですが、なお書きの後ぐらいの前段でもいいのですが、能登半島地震が起こったので、今回の教訓を踏まえながら、今後の計画の反映だとか何とかというのを検討されたいぐらいな。委員、審議会として、こんな大きな出来事なので、将来的に次またというところを多分考えざるを得ないと思うので、審議会のほうも、具体的なものに落とし込むというのはなかなか難しいかと思えますので、そういうのをちょっと入れてもいいのではないかなと思ったのですが。

【会長】ありがとうございます。非常に的確な御意見ありがとうございます。高橋委員と篠田委員のおっしゃるとおりで、今、篠田委員が特にどの辺りに落とし込んだらいいのかということの提案でした。ありがとうございます。

【小林委員】11月の論議も思い出しながら、先に資料をお送りいただいたので読み込みもしてきたのですが、記載をまとめていただいたので、すっとうって来たので、そこはずれはないですという感じです。

その後の経験で、そのとき自治会に代わるもので、おやじの会、子育てサークルみたいなのがありましたけれども、自分のことであれなのですが、今年から野球チームに子どもが2人入っておりまして、これのコミュニティが結構すごいですね。寒川町、野球連があって、5つぐらいチームがあるのですが、毎週、土日にも朝から練習ですし、そのつながりと、お父さん、お母さん、子どもとの連携がすごいです。だから、野球にとらわれずサッカーとかもあると思いますけど、そういうものを活用するのもありかなと思いました。

この間、そこでマラソン大会があって、野球部が結構出て、結構そういうコミュニティというのでも絆、横が深いし、あと、結構、先輩のおじいちゃん、おばあちゃんみたいな人が野球を教えに来てくれたりするので、そういうところにもちょっと気づきを感じました。

11月のときには気づかなかった話を野球チームのところの結束でちょっと思い起こしたので、そういうのもあるかなと思いました。

【会長】ありがとうございます。今日は小川委員は欠席ですが、学校スポーツの地域移行の話で言うと、おっしゃるとおりですね。教育委員会マターになって。学校スポーツを地域移行に、これからやっていくという話の中で、スポーツを通じ

たコミュニティを地域が受皿となってやっていくという話が進んでおります。そういったここで議論したときのコミュニティというのは、町内会、それに加えて、そういったおやじの会みたいなかたちだったのですが、そういった地縁型ではないコミュニティみたいなものについても触れておくのか、地域コミュニティの強化というのは、いろいろな種類のコミュニティがあるのと、ここら辺をテーマとして入れ込んだほうがいいのか。

ほかにはいかがでしょうか。どなたでも結構です。

ここでの提案というのは、一生懸命やっている担当部局が考えもつかないようなアイデアを出すというよりは、お互いが持っている課題の認識を共有した上で、どういうふうにやっていけばいいのかということの方向性を共有するということと、さっきの前段の話だと思うのですが、それを進めるに当たって、もし町以外の力が必要であれば、我々自体もリソースになるから使ってくれという。例えば、情報共有のアプローチを一生懸命やっているのだけどどうしたらいいのですかねと、逆に我々に質問というか提案が返ってくる可能性もあるわけですね。そのときに我々として何ができるのか、それぞれの町でいろいろ何ができるかという、ある意味ブーメランになる可能性もなきにしもあらず。そういった形での町側の対応というのも当然あり得るのかなと思います。だからといって、この提案を臆して弱める必要もないかとは思いますが。

【内野委員】いろいろなコミュニティの話ですけれども、寒川町の中にもいろいろな組織がありますよね。その中で、昨日は青年会議所がありました。今年度、子どもたちのことを考えてやっていくという。その前にロータリーのもありまして、やはり子どもたちの未来ということとか、あとは、ロータリー、ソロプチ、青年会議所、いろいろなボランティア団体がありますので、そういうところのお互いが情報交換ではないですけれど、うまくそういうものを町もある程度関わりながら、いい方向にというところ。

当然、商工会もいろいろな下部団体がありまして、そういうところも地域コミュニティの中でできることはできますので、皆さんができることをやっていくことによってよくなると思います。

【会長】ありがとうございます。そういう意味で時機にかなったテーマといいですか、これをやろうとしたときに、いろいろな団体あるいはコミュニティが汗をかくてやるかと言ってくれるような機運が高まっているという意味では、投げかけて、向こうからも何か投げかけてきて、その中では何か新しいところ、あるいは課題に対する状況が少しでもよくなるということでしょうかね。ありがとうございます。今、御意見、加えらしたら、この②の辺りの内容ともちょっと関わってくる。

【釘持委員】前回の審議会は欠席させていただいたので、今回、この提案書の案を拝見しての感想です。1点目は、集える場所の創出というのは、今、課題としては子育てをしている人たちの集える場所という話があって、課題を踏まえた対策の最後に、子育て支援関係機関の集約とあったのですが、課題のところ、子育て関係支援団体自体が集える場所の創出というのもあってもいいのかなと思ったところなんです。

あと、既存コミュニティの強化の課題の最後に、「自治会への加入をアップすることが」とある部分は、「加入率」とすべきかと思いました。

もう一つ、③の情報発信の課題の最後に、子どもたちを地域で見守っているという文言があるのですが、これは②の課題のところの3点目で同じ言葉が入っています。情報発信の話ではないのように思われたので、③からは削ってもいいのかなと感じました。そのときの議論の経過が分からないので、検討いただけたらと思います。

【会長】ありがとうございます。すいません。最後のところがフォローできてなくて、③の課題のポツ4つ目ですね。

【釧持委員】4つ目に「安心感を親に」というのがあって、それが②の既存コミュニティの強化の課題の3つ目にも同じ文言が入っているのですね。意図してこれが両方とも入っているのか、どちらかを削除すべきなのかは分かりませんが、印象的には③に入っていることがちょっとよく分からなかった。

【会長】ありがとうございます。今、必死に思い出しているのですが。最後の御指摘で言うと、②の課題に入っていることについては違和感がない。③の課題の4ポツにも入っているというのが、実はひっそり見守っているのだよということが親に伝わるといふことでの情報発信ということだったのかなと今整理として思ったのですが。

【釧持委員】御確認いただけたらと思います。

【会長】確かそういう意味合い、二重の意味合いが込められているのではないかなというのと、見守りが行われているというのは、それは地域のコミュニティがある意味機能している。見守りが行えているということを経が知るということが、ひっそり見守っているというよりは、それが情報発信として伝わることのほうがいいのではないのかなという内容だったかなと思うのですが。ちょっと自信はございません。

おっしゃるとおりで、どちらか削ってもいいのかなと思っております。恐らく、この議論が出たとき、どっちかという③の内容の意味合いのほうが強かったような記憶もあるのですが。

【小林委員】③のほうが強かったような気がしますね。

【会長】そうですね。そうすると、②をむしろ削ってのほうが、ここでの意味合いとか文脈の内容に近いのかなと思います。

1点目の御指摘はおっしゃるとおりで、親だけでなく、そういった先ほど内野委員がおっしゃった、いろいろな団体が、いろいろなことを実は個別ばらばらにやっている団体が一緒に集える場所というのが必要だと、そういった支援する側の横のつながりというものを行政機関だけではなく、総合窓口とか行政としてつくっていくというのはおっしゃるとおりなので、ぜひ盛り込みたいと思っています。

【天利委員】前回の会議の資料を見させていただいて、地域で子育てするコミュニティの活性化というようなことで、ここに挙がっているのは自治会とかサークルとかおやじの会とかというのは、当然こういうふうな形になるかと思うのですが、私が思ったのは、今ちょっと気がついたのは子供会。子供会というのは、我々

が子どものときには集団登校、今でも集団登校をやったりして、あと、夏休みにはラジオ体操やったりして、ラジオ体操をやることによって、親も一緒についてきたり、親以外の人たちも、その地域で、その広場でやったりする。そういう形で、そこから地域、もっと小さくした地域ですね。能登半島の地震のときには、大きいところで知らない人がいたりして、一緒に住むのがつらいとかというふうなことがよく出ていた。そうではなくて、もうちょっと細かく、自治会さんでも全然いいのです。自治会も大きいじゃないですか。そうすると、子供会というのは本当に小さい、集団登校するような子どもたちが集まってくるような場所になりますよね。そこら辺の地域の横のつながりというのにも必要なのかなというふうに感じました。

【会長】ありがとうございます。寒川の子供会。大きさのイメージ的には、町内会の班ぐらいのレベルでしょうか。

【森井委員】昔は結構、どこの町内でも子供会というのがあって、今はもう大分減ってしまっているのではないですかね。

民生委員でお腹の中にいるときからというお付き合いをさせていただいたのですが、コロナのタイミングでそれもちょっと接触しなくなってしまうので、ちょっと離れてしまっているのかなとは思っていますが、今、子育て広場というのを南中北と分かれてやって、一時、健康管理センターでやっているときも、毎月1回なのですが、100組ぐらいの人が来ていたのですが、コロナの影響で随分減ってはきていると思うのですね。民生委員との話合いの中でも、いつもお子さんだけの問題ではなくて、居場所づくりということが結構話題にはなるのですが、なかなか進んでいかない部分があるかと思います。

一人親もちょっと増えてきている状況でありますので、私たちが接触することが多くなってはきている状態です。

【会長】ありがとうございます。先ほどの釧持委員の御指摘、そういった支える側のネットワークというものも必要になる。その中に民生委員というものが大きな仕事をされているのと、いろいろなそういったサークル、団体みたいところが一緒になる。支える側がまさしくみんなで一緒になってやるというような仕組み、仕掛けというのにも必要だということだと思います。ありがとうございます。ほかにいかがでしょう。

【及川委員】前回の検討テーマは子育てのコミュニティ活性化というテーマでした。それなので、例えば今の天利さんから出た子供会というのは確かに1つだというふうに思うのですが、実はこれはもっと根本的な問題をはらんでいて、子育てに関するコミュニティの活性化という切り方はできなくて、コミュニティ全体の活性化という捉え方をしないともう成り立たないのではないかなと。

現実問題、自治会もどんどん加入率が下がっています。倉見でも半分以下になったと言われています。それから、子供会も、倉見地区で言うと半分ぐらいです。私は神社の関係もやっているのですが、神社で子供みこしを担ぎますというとき、子供会がやっていたわけです。だけど、このコロナ禍の前から、もう子供会では担げないというか、組織としてそういう対応ができない状態になっていました。それではあまりにも寂しいからというので、実は無理無理、役員さんは残ってい

たので、このコロナ明けということで、去年初めて子供みこしを頼んで子どもたちを集めて担いでもらった。そうすると、募集をすると来るのです。子どもさんも親御さんも集まるのです。実は想定したよりも多くて困ってしまったぐらい集まってくれたのですが、それをまとめる人がいない。私がまとめますという人がなくて、結局、子供会も成り立たないし、自治会も結局は役をやる人がだんだんいなくなっていくというのがやはり一番大きい問題、根底、根本的にあるのだろうと思うのです。

だから、もし子育てのコミュニティ活性化ということで切るのであれば、そこまで大きくならないのかもしれないですけど、ただ、活性化を図るのであれば、同じ根っこなので、どうやってそういったコミュニティの小さい単位のところを活性化する、うまくそれが成り立つようなことをやっていくのかというのはやはり本気で考えないといけないのかな。

あるいは、ちょっと最近思い出しているのですが、もしかしたら、そういうのは要らないといって1回御破算してもいいのかなと。御破算にして本当に必要ならば、必要だという人たちがやろうよとなるので、一度そういう荒療治も必要のかなと思いつつ、ちょっと子どもも、子育てに関するコミュニティ、ちょっと性格は違うと思うのですが、やはり一緒にそういうところも含めて考えていけないのではないかなと思います。

【会長】ありがとうございます。根本的なところの御指摘で、まさしくおっしゃるとおりで。

あとは、地域での子育て世帯という、ライフステージの中でコミュニティに一番近くなってくるタイミングというのですかね、それが20代とかになると、地域のコミュニティを離れて広い世界に行くわけですけれども。このライフステージの中で一番地域とコミュニティに関わるところでしっかりお互いの関係をつくるということが、次のライフステージになっても関わりを保つ一つのきっかけにもなるのでは。そういう意味で、おそらく根本的に解決する一つのいいタイミングというか手段、時期でもあるのかなと思います。

ほかにいかがでしょうか。

今改めていろいろ御意見いただいたものを私のほうで責任を持って調整をして、うまく、文言修正とか追記したほうがいいのかと御指摘いただきましたので、差し支えなければ、これは審議会として町に投げるものですので、名宛先が町長になっていて、発出が私の名前になっていますので、責任を持って御意見を反映させて、町側に投げかけてもよろしいでしょうか。最終的なものはまた皆さんに共有させていただきます。

またこの検討結果がどう戻ってくるのかある意味では楽しみなのです。今回2回目になりますので、どういうカーブというかフォークを投げたらどういうボールが跳ね返ってくるのかというのは、ある意味楽しみに投げかけたいと思います。いかがでしょうか。

<各委員了承>

(2) 寒川町総合計画審 2040 第 1 次実施計画の修正について
<事務局から資料 3・4・5 に基づき説明>

【会長】ありがとうございました。今御説明がありましたとおり、修正が可能な内容の報告となっております。御質問等ございますでしょうか。

【高橋委員】資料の文字が小さすぎて、虫眼鏡で見ても見えないような修正を出されても困ってしまう。もう少し作り方を変えたらどうですか。資料 4 の 2 項目だけを変えるのでしょうか。あとは関係ないのだから、それを A 4 判 1 枚に大きくしてくれないと。この表を一生懸命見ている、そうしたら、資料 5 に後ろから出てくるし、がっかりしたのだけど。ちょっとその辺の工夫をしていただかないと、委員の方で見える人はいますけれども、読めるかもしれませんが、もうちょっと資料の作り方を工夫されたらどうか。

【事務局】申し訳ございません。正直、私も資料 4 の細かい字は読めません。資料 5 と対として初めて成立する資料となっておりますので、今後の資料の作り方については工夫させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

【会長】御指摘ありがとうございます。

【及川委員】すいません。確認させてください。

5-2-1 の市街地整備の推進のところで、地図の差替えということで今お話があったのですが、これは地図の実態が変わったからということですか。それとも、どこか前回までのものと想定以外の変更点がある、地図上で変更点があるからなのか。ちょっとそこを、すいません、聞き漏らしたかもしれないので、もう一回。

【事務局】資料 5 の裏面を御覧いただいたほうがよろしいかと思いますが、修正後については今、左側のほうに赤い点線でエリアを囲っているかと思えます。修正前は、その点で囲まれた中の右側に三角地のような赤い線で囲まれているところがあると思うのですが、その南側、長方形に少し大きく土地がありまして、そこが実際は民地でございます。

修正前は、その民地を活用してバスの転回場ですとかタクシーの発着だとか、そういった南口の駅前広場というような構想で、地権者の方と土地活用させてもらえないだろうかとかということでも所管課のほうで折衝してこれまで来ていたということなのですが、地権者の方がほかに土地活用をしたいという結論になりまして、ちょっと思い描いていたような進捗が今後難しくなってきたという状況になっております。

赤い点線の左側のほうに四角く赤く囲っているところがありますが、そこは今現在もバスの転回場として利用しているところになっております。歩いていける距離ではありますが、寒川駅からは多少離れているということもありますし、また、赤い三角で囲ったところについては、普通自動車が転回できるように町のほうで買収して整備し、利用できるようにし始めたところになっております。

ただ、南口の課題としては、タクシーの乗り降りするような十分なスペースが今

取れていないというところと、駅にすぐにバスが入っていけないというような課題もありますので、それらを今後どうするのかということは、整備していく必要性を十分感じているというところがありますが、まだ具体的にどう着手していいかというところが、正直、白紙になったというところがありますので、南口エリア一帯を検討するエリアということで、地図の差し替えをとという形でさせていただいたというのが状況でございます。

【及川委員】そうすると、例えば、今のような形で見直しになってしまったというのをちゃんと書いたほうがいいのではないですか。これは計画の見直し案なのですよ。そのとき地図の差し替えであると、単に地図を差し替えれば、今までの目標とかはそのまま進むというふうに素直に取ったのですが、そうではないのですよね。大分変わる可能性がある。今までの目標とか、施策に関して、事業については変わる可能性があるということをおっしゃっているのですよね。そうであれば、そういうところも書かないと、次の2次計画の考え方の基本という案で出されるのであれば、ちょっと違うかなという感じがしますが、どうですか。

【事務局】第1次実施計画としては、来年度、6年度が最終年度になります。6年度中に、具体的に何をどこまでこの寒川駅の南口整備事業として、具体的な事務事業として出せるかというところ、正直、出せないというところがありますので、そういった部分では、目標指標を設定するだとかそういったところまでには至らないのかなというところで、今後、第2次実施計画の策定を控えておりますので、第2次実施計画に登載できるのかどうかも含めて、所管課のほうと調整もしながら、記載については考えていきたいと思っています。

【及川委員】今御説明いただいたことに関しては異論がなく、それはそれで了解しましたということなのですが、情報の出し方として、この形だと、単に地図の差し替えで、このまま進むものと素直に取ってしまう。よくよく地図を見てみると、違うのではと、これだと目標が変わってきてしまったり検討が変わってしまうのではないかという形で今思えたので、指摘させていただきました。その辺がちゃんと伝わるような形で対応いただければ構わないと思います。

【事務局】右側の具体的な取組のところ、寒川駅の南口整備事業については、事務事業の目標として、寒川駅南口駅前広場の供用により町民が快適に行き来しているということを目指しているということで、そこについて取り組んでいくということにはこれからも何ら変わりはないと思っています。南口の整備が必要だということは十分認識しておりますので、そこについてどう取り組んでいくかということは、これからの設定になるのかなと思います。

【会長】御指摘ありがとうございました。今の及川委員の御指摘というのは、この絵を入れ替えることが、具体的に言いますと、資料5の裏面の右側の①の寒川駅南口整備事業の目標指標ですね。恐らくこれは差し替え前の考え方であまりといった場合に、令和5、6で100%になっていくという用地整備の積み上げを検討していた。それから、この目標指標の追加と変更も資料3では一応「可」となっておりますので、それも含めて検討したほうがいいのではないのかというような御指摘だったのかなと思います。

変更しない場合に、この目標指標は当然達成できなくなります。恐らく第1次実

施計画の評価の中で、達成できないという評価がされて、2次の中で、1次、2次と積み上げていったものの、1次ができなければ、2次計画をもう一度作り直していくという形に恐らくなってはいく。その辺りが見える化したほうがいいのか。

【事務局】そうですね。今会長がおっしゃっていただいたように、南口の整備については、今後、評価というところで達成できなかったという結果になると思いますし、達成できなかった理由ということもまたその評価の中で明らかにしていくということで、2次実計以降につなげていくような具体的な取組が見いだせればと思っています。

【会長】といいますと、目標指標、現実に合わせて変えてしまうと、大きな現状変更なのですが、達成する目標が下手すると下がってしまう形にもなるので、ここは恐らく結果的には第1次実施計画は未達成という評価をしたほうがいいのかもしいかな。

【及川委員】だとすると、今ここで地図を入れ替えないほうが良いような気がするのです。地図だけ入れ替えておいて、未達成になりそうだとするところについては何も見直しをしないで、1次の計画が終わるまで持っていくというのであれば、地図もそのままにしておいて、年度末のところで、地図が変わったから、だから目標設定がもうできなくなりましたというので見直します。2次でいきますとやったほうが良いような気がしないでもないですが、2次に向けてのということでは理解しました。

【会長】よろしいでしょうか。内容的には、もう一つは、教職員研修のアウトカム指標を追加するというような内容だったと思います。

(3)「寒川町総合計画審 2040」第1次実施計画の振りかえり及び第2次実施計画策定の基本的な考え方(案)について
<事務局から資料6に基づき説明>

【会長】御説明ありがとうございました。

それでは、今御説明ありました内容について、どんな観点からでも結構ですので、御質問いただければと思います。

【及川委員】まずお伺いしたいのですが、こういう形で案をつくっていただいているのですが、最初の目標のところにもあったと思うのですが、町民の満足度を得られるような形で進めていくというふうになっていると思います。そうしたときに、例えば、この1次計画の振り返りということで、今の時点ではまだ町民の満足度のアンケート結果は出ていませんという状況の下で、今回、その検討案という形のもが出されているわけなのですが、そうすると、2つ疑問があって、1つは、じゃあ今の案というのは何を基にしてそういう評価案をつくっているのか。例えば、こういうところは不十分と思われる。だから次の計画ではそれをこうしますよみたいな展開があるのですが、不十分だとかあるいは満足しているというような評価というのは何をベースにして今回やられているのかというのが

ちょっと分からなかったのと、それから、もし今のまま進めるとして、令和6年度に町民の満足度調査をやった結果として、もし今の案と違う面が出てきたら、もう一度そこで2次計画の見直しをされるのですかというところをちょっと教えてほしいです。

【会長】ありがとうございました。いかがでしょうか。

【事務局】アンケートについては、特に無作為抽出で行って、全町的にやっていくアンケートというのは、正直、毎年はやっておりません。計画策定のタイミングを計ってということなので、4年に1度の割合で無作為抽出による郵送のアンケートは実施しています。

それでは、その間は何もやらないのかというと、心もとない部分がありますので、今年度1回目のときにお話ししたかもしれません、eマーケティングとか町民アンケート、オンラインでのアンケートということで実施しているところがありますので、町民アンケートも重要な指標の測るものとして捉えておりますが、それ以外にも例えば、社会経済状況の変化だとか、近隣、隣接している市との取組の違いだとか、類似団体、同じ町レベルで全国類似団体と比べて、町がどういったところに特色があるのかとか、逆にどういったところにてこ入れをしていかないと比較して劣っているようなところがあるのではないかと、いろいろな指標の測り方があろうかと思っています。

アンケートだけに頼ってしまう怖さというのが、どうしても属性によって偏りが出てくる。満足度についても出てくるのかなというところがありまして、それこそ、お子さんからお年寄りまで、皆さんに全て満足していただけるという行政運営をすると、お金が幾らあっても足りない。やれることについては財源の足かせがどうしても出てきてしまいますので、健全な行財政運営をしながらも、どこに着地点を求めていくかというところが重要なことというふうに思っていますし、その中で、寒川らしさとか、町の特色としてはこういったところに力を入れていますというのが言えるようなものをつくっていく必要があるのかなというふうに思っています。

ですので、アンケートは、定点観測的なイメージで捉えておりますので、経年変化を見るというようなところで思っていますし、当然、満足度が上がったほうがいいとは思っていますので、そういったことに寄与できるような実施計画をつくっていく必要があろうかとは思っています。

その年によってアンケートの結果が、多少波があるといいますか、誤差が出てくるようなところがあるかと思っておりますので、その都度その都度一喜一憂していると、計画自体、大きな流れを持って、方向性を持ってやっていくのに、そのアンケートの結果によって毎年毎年取組が変わってしまうというのはいかがかなというところは思っていますので、町民アンケートは満足度を測るものとして捉えてはおりますが、その結果だけをもって変えていくということについては、ちょっと慎重に検討していきたいなと思っています。

第1次実施計画でも思うように事業が実施できなかったという背景は、やはりコロナの影響というのも多分にあたりますので、社会状況だとかそういったものに対しても対応できるような、大きな流れを持った4年間というスパンにな

りますので、そこでどう達成できていけるかという視点でやっていきたいと思っていますし、基本構想はそれこそ20年のものになっていますので、最終的な目的達成のために、2次実計の4年間では何ができるかという視点でやっていきたいと思っています。

【高橋委員】 要は、今、及川委員の御質問は、今後の4年間がどう今までのアンケートが反映されているのかということを知っているわけですね。

確かに報告書に5ページの(2)で、満足度については4年に1度郵送によってアンケートを取るから、満足度向上については不明だということをはっきり言っているわけです。今後の方向性についても分析を云々というふうに書いてはいるけれども、「構築していきます」だけで、どう改善していくのというのが分からないのですよね。

確かに今課長がおっしゃるように、アンケートを本格的にやると金がかかるのは正直よく理解していますし、きちっと定期的にやらないと、過去の実績との比較ができないというのも分かります。

そういう意味では、例えば、4年が過ぎてから結果が出てきても意味ないわけで、途中で、統計には出さないけど、こういうようなアンケートになったらこういう傾向がありましたよというような形で、先ほどeアンケートをやっているというような話がありましたから、それも一つの手だろうと思うのです。今後の電子化によってeアンケートでやって意見を聞いていく。それはある意味では若い人の意見かなというふうに。属性も分かってくるだろうし。

そういう意味で、一つの参考としては、いろいろなアンケートを金をかけないでできるのではないかなと。例えば、住民票から無作為にやっているということは、関心が非常に低い人が多いわけですね。大体日本人のアンケートというのは2桁行けばいいような感じで、数的な問題が出てきているわけですから。そうではなくて関心のある人、例えば、いろいろサークル活動やっているような人とか、あるいは、町にいろいろ関わってこられる方とか、そういう方のアンケートも、全てを取るのではなくて、一つの傾向として取っていくというような、それこそ柔軟性のことをやらないといけないのではないかなと思うのです。

だから、4年に1度きちっとやっていくのは、それはそれで統計としては必要でしょうけれども、その間に事務局なりの意見を聴取するという意味でのアンケートをやられたらどうでしょうかねということが1つの意見として出させていただきます。

【及川委員】 何でその話を出したかというのと、以前この審議会の議論で、アンケートの取り方が不十分ではないかと。町民が4万人に対して郵送で出したのに対して、500人ぐらいしか回答がない。そうすると、いつも返す人は返すけれども、ふだん返さない人はアンケートの結果は返してこない、すごく偏ったものになるのではないですかと前にあって、次にアンケートを取るときは、できれば、極端な話をすると職員の人が戸別訪問して書いてもらった方がいいのではないですかと。そういう方法も含めて、もっとみんなのそういう満足度を調べるなら、それがちゃんと取れるような方法を工夫したほうがいいのではないですかとあったのですが。

だから、その関係で今回、令和6年度取るのかなと。そうすると、ただ、令和6年度で満足度調査をやるのだったら、満足度調査をやった結果を反映させて第2次計画がつくられるのかなと思っていたところで、まだ満足度調査はしていません、だから満足度は分かりませんという前提でこの計画案が出てきたので、そうすると、最初にお聞きしたかったのは、この計画案というのは何をベースにして評価しているのですか、1次計画の評価を出しているのですかということでしょう、今のお話いただいた内容で言うと、要は、もちろん今までの過去にあったアンケート結果を考慮はするけれど、町として、全体としてこうじゃないかという検討の上でつくった。そして、それに対して第2次計画の計画案ということでの考え方を整理しましたと、そういうことになるのですかね。

【事務局】 そうですね。

【及川委員】 それであれば、別にそのよしあしは別にして、理解はしました。ただ、1つだけ気になるのが、第1次実施計画策定の基本的な考え方の(2)で、町民の満足度が向上する施策、事務事業を優先しますとか書いてあるのですよ。こういうのがどういうふうにかされたのかなというのが、ちょっとバランスがあまりよくないのではないかなと見えるところはあるのですけれど。

だから、せっかく今回、最初に、総合計画をつくる時に町民のいろいろなワークショップとかいっぱいやって、それで町民の考え方を取りこもうよってやったわけじゃないですか。だとしたら、やはり進める過程も、もっと町民の意向を反映できるような進め方というふうにしていったほうが、せっかくそこをやっていながらという意味でも、ちょっともったいないような気がしました。なので、ちょっと確認をさせていただきました。

【事務局】 今回は第2次実施計画をどういうものにしようかという大きな基本的な考え方なので、第1次実施計画の基本的な考え方だとか、もともと2040をどういう形につくっていかうかという、各項目ごとに状況を整理して今後の方向性を出したものになります。

満足度の調査については、今後、施策の目標だとか事務事業の目標を設定する上で、今は満足度を施策ごとにとっていますので、その施策の満足度が、毎年ネットでアンケートを取っている中で、その経年変化なんかを見ながら、どうしてこうなっているのかなというところを各担当でワークショップして話してもらって、今、満足度がこうなっているのは、こういうことやったからだよねとか、逆に、社会情勢がこうなっているからこの満足度があまり伸びないのだねという話をしてもらった上で、目標の設定をしようという形にしていこうと思っております。

ですので、ここでは満足度調査の結果というのは反映されないのですが、今後、話し合う。目標の設定の中で、その満足度アンケート、今まで取ってきた経年変化だとかを踏まえて設定していくという形で考えています。

【及川委員】 分かりました。もしそういう経緯でやるということであれば、それも、進め方で書いてもらっていると、変な質問をしないで済んだかもしれない。申し訳ない。そのところは分かりました。

【会長】 ありがとうございます。

【小林委員】振り返りということで説明していただければちゃんと入ってくるのですが、プレゼンテーションということでいくと、なかなか入ってこないで、状況と今後の方向性というのでまとめているのですが、できればプロコン、長所、短所みたいなものでまとめてもらって、長所であれば伸ばすのかそのままにするのか、短所であれば対策するのかみたいなことをもちよっと浮き立って見えるようにしたほうが良いと思います。

それで、ある程度ちゃんと取ったほうが良いとか、みたいなことになってしまうので、なかなか定量にするのは難しいと思うのですが、結構、定性めいた形で推察、推認されているので、定量化できないものもあるとは思うのですが、そういう裏づけの基に次の2次のほうをつくっていったほうが良いと思うので、やはりプロコンをちゃんとつけて、それをどうしていくのかというのをもうちょっと資料とプレゼンテーションのところで明確にしたほうが良いと思います。

【会長】御指摘ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

この前の議論、目標設定、下限、下げることはできないけれども工夫をしていくとなると、先ほどの議論とも関わってくる話です。

あと、最後、事務局から御説明があったのですが、来年度、恐らくこの2次実施計画の中に、議論の中心があるかと思います。今議論になっておりました満足度ですが、当然ながら、この総合計画をつくる出発点としてまずあって、どちらかという、満足度というような究極のアウトカム指標のようなもの、事業、計画終わった後の評価として実施をする。第1次実施計画の評価をするものとして、最終年度である6年度に実施する。

ただ、タイミング的に、それに合わせて2次をつくっていかないといけないということで、2次の実施計画策定のための4年に1度の評価というよりは、恐らく考え方としては、1次の実施計画の評価をするためのもので実施をする。

今、最後、御説明があったように、2次の実施計画に向けてアンケートみたいなものは使えないのかというと、先ほど来言っております、補足的にオンラインでやっているアンケート調査の、どちらかという、それはその進捗を見ていく使い方を踏まえて、2次の実施計画の策定に活かしていく。そういった2つのサイクルが回っているようなイメージと捉えていただくといいのかなとも思います。私の理解が間違っていたら訂正いただければ。

ですので、アンケートのところについては、来年度以降、第1の実施計画の評価のところでも少し議論になるのでしょうかね。

【事務局】6年度が終わって、1次実計の4年間を総括するような形でのアンケートになると思うので、その結果を踏まえてということだと、7年度早々になってしまうかなと思います。

【高橋委員】そのアンケートは、7年度に入ってからやるわけですね。6年度が終わってからだから。という考え方ですね。

【事務局】はい。そうですね。

【会長】そうしますと、来年度、6年度のもしかしたら審議会の中でアンケートの設計の議論とか、あるいは報告のようなものはあるかもしれない。来年度の何をしていくかということについては未定だと思いますが。

あるいは、考え方として、分析に資する、よく言われますが、当事者の満足度が全体の満足度に対してどうなっているのか。満足度が下がっているのだけれども、当事者の満足度は上がっているようなことも当然あったりする。両方下がっている。全体の満足度は上がっているのですけれども、当事者の満足度は下がっているというようなもの、これをどう分析していくかということを、後の分析に耐えるような質問、あるいは属性を取っていくことが大事になってくるのが、実施計画振り返りの中であった内容だと思いますので、その辺りのことも、次年度の審議会の中で少し議論になるのではないかと予測しております。

ほかにいかがでしょうか。

【篠田委員】最近、国とか、県は実施計画を作っていますが、国や県、他の自治体などで、基本的な策定方針のところではDXとかGX、デジタル化とか脱炭素化というのをすごく皆さん打ち出しているんですね。この中で見るとそれは全く触れられていないのだけれども、社会情勢の中でいろいろ変化を踏まえてやっていきますよというふうには書いてあるのですが、今そればかりになっているところもあるので、お勧めするかどうかというのは別なのですけれども、かなり世の中の現状がデジタル化、DX、GXというのをかなり押し出してきて、そこに結果、財源が出ていくというようにやってきたりしているのですけれども、その辺というのは、2次の中で、まだなのかもしれないのですけれども、その考えを持っているのか、現状だけでも教えていただければと思います。

【会長】ありがとうございます。いかがでしょうか。これから具体的につくっていくということだとは思いますが、基本的な考え等の中で特出しをしてもいいのではないのかというようなご意見だったかと思います。

【事務局】基本構想の中では、6章立てで、その中に行政運営の部分のところもありますので、そういったところに2次実施計画の目標設定として、今御指摘いただいたようなところが反映できるといいのかなと思います。

【会長】ありがとうございます。ほかに。

【内野委員】ちょっと外れるかもしれませんが、総合計画と個別計画の関係というのがありますよね。個別計画というのは、多分ここに書いてあるのは、寒川の中の個別計画の話だと思うのですが、逆に県のほうですね。昨日もちょうと県の黒岩さんと懇談会をやって、いろいろな話が出ていまして、そういう中で、神奈川県としてやっているのはツインシティ構想で、平塚、寒川がやっていますよね。寒川のほうも、今度は2月に公聴会かな、またやりますよね。

そういう現実には都市計画の中で動いてきているやつとか、あとは、新幹線の設置促進期成同盟会とか実際動いていますし、相模線の複線化期成同盟会というものもあって、きちんとした計画にはなっていないのですけれども、そういうものも2040ということを見据えれば当然考えなければいけない話だと思うのです。

そういうものも今後総合計画の中で、どの程度盛り込めるかは別としても、やはり考えざるを得ないと思うのですけれども、あまり直接的なあれは出ていないですよ。

【事務局】今後策定しようとしている第2次実施計画が、先ほどから御説明した7年度から10年度の4年間の取組なわけです。そこで具体的に何をどこまででき

るという見込みというか、目標が立てられているものであれば、それに向かって達成度を測っていくということで策定していくことになるのだらうと思いますが、今御指摘いただいたツインシティですとか新幹線の新駅誘致の話というのはもっと長期な話で、この7年度から10年度に何ができるというところがどこまで言えるかなというところだと思います。言えるものであれば、当然、2次実計に搭載して進捗を図っていくものだと思います。

あとは、所管課の取組だとか、どういう目標を考えているかといったところを、当然、所管課の中で全体で話し合っていていただいて目標設定していただくことになると思うのですが、そこについては企画も関係していきたいなというふうに思っていますし、全体の2次実計にどう反映できるかというところも調整していきたいと思います。

【会長】ありがとうございます。そういった機運が高まって、乗っかるようなところも、恐らく実際の計画づくりの中で、御指摘いただいたことが反映される部分も出てくるのではないかと考えています。

ほかにはいかがでしょうか。具体的な中身というのは恐らく来年度以降の中で、こちらにも審議あるいは報告という形で入ってくるかと思えます。今日はどちらかというところ全体方向性の話で、そういう意味でふわっとした内容。ぱっとしたところは議論しにくいところはあったかと思えます。

【及川委員】すいません。もう一点だけお願いなのですが、今日の振り返りの中で、一部の人だけが評価とかに参加していて、それで、職員全体にはそれが行き届いていないというのがありました。本来これはもともと町を挙げてやっている最上位の計画なので、みんなが参加意識を持たないと駄目だと思います。

なので、2次の計画のところにも書いてはありましたが、言わば、職員含めてみんなで共有するという形で書いてありましたが、できるだけ早く職員のほうに下ろしていただいて、みんなが目的を持ってそれで取り組む、目標に向かって進むという意識づくりをぜひお願いしたいと思います。

多分それがモチベーションとかにも絡んでくるので。今までだと、総合計画ってあるけれども、俺どうせ蚊帳の外だから、何も言われてないから関係ないというふうになってしまったらもったいないので。ぜひそこで、私も知っていますと、私の中ではこういう項目、目標に対してやっていますと言ってくれるような、そういう体制をぜひお願いしたいと思います。

【会長】御指摘、おっしゃるとおりです。ぜひよろしくお願ひいたします。

2 その他

次回総合計画審議会

令和6年7月ごろ開催予定

予定内容 令和5年度事務事業進捗状況について報告

詳細については後日連絡

○閉会

資料	<p>令和5年度第3回寒川町総合計画審議会次第</p> <p>【資料1】寒川町総合計画審議会からの提案に対する検討状況について</p> <p>【資料2】寒川町総合計画審議会から寒川町への提案について</p> <p>【資料3】寒川町総合計画第1次実施計画（施策・事務事業）修正の基本的な考え方</p> <p>【資料4】各施策における修正事項一覧</p> <p>【資料5】第1次実施計画書R6修正箇所抜粋</p> <p>【資料6】「寒川町総合計画 2040」第1次実施計画の振りかえり及び第2次実施計画策定の基本的な考え方（案）について</p>
議事録承認委員及び 議事録確定年月日	菊地 端夫（令和6年3月22日確定）